

特定非営利活動法人

日本雲南聯誼協会

【本部】〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1
J東急目黒ビル7F

Tel. (03) 5435-5977 Fax. (03) 5435-5978

Email: yunnan@jyfa.org

URL: http://www.jyfa.org

【雲南事務局】雲南省昆明市人民東路289号集大広場20階2011室

Tel. +86-871-3311468 Fax. +86-871-3320658

編集・発行人 初鹿野恵蘭

印刷協力 朝日新聞印刷 株式会社評論社



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

会報

第19号

発行日 2006年(平成18年)4月10日

初鹿野理事長、思茅小学校視察に思う



2006年2月16日～22日
雲南省小学校視察
理事長 初鹿野 恵蘭

2006年2月15日～22日の日程で、雲南省視察に赴きました。視察先は雲南省南部の思茅地区・紅河州建水県です。今回の小学校視察は「雲南省司法庁」の全面的な協力により、実現出来ました。司法庁と協会のつながりは、昨年盧長官が日本を訪問された際に出会ったのがはじまりです。司法庁、と聞くと一見小学校支援とは無縁に思える組織ですが、「扶貧(貧困者支援)事務所」という組織があり、これまでも貧困学生支援、小学校支援等の活動を行っています。また貧困の厳しい雲南省ということもあってか、貧困家庭に対する職員たちの関心も高いです。協会は、このような雲南省司法庁からかねてより共感と支持を頂いており、協力して小学校支援をできないか、という打診がありました。

そして今回、司法庁関係部門からは非ともという思茅地区の小学校の視察を行う運びとなりました。全日程の計画と準備は司法庁が担当してくれ、また長官はじめ多くの職員の方が山岳地の小学校視察に同行してくださいました。



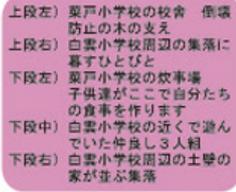
民族衣装で迎えてくれた先生がたと中央左は協会の活動に賛同してくれた熊司法庁長官

曼等菜戸完全小学は、思茅地区景東県曼等郷にあります。曼等郷は漢族の他、イ、回、ヤオ、白、ハニ族などが暮らしている地域です。プーアール茶の生産地であり、樹齢2700年の世界最古のお茶の木があることでも知られています。郷をゆく無量山は、長蛇窟が生息していることでも有名です。菜戸小学校には69人の子供たちが勉強し、生活しています。その7割がイ族です。農民の協力で作られた校舎は泥壁と木で出来ています。壁は所々崩れ、木の芯が見えはじめています。校内の中心には2メートル四方ほどのため池があり、山からの雨水がためられています。学校での生活用水はこのため池の水を使っています。児童たちは炊事場で自炊をしています。地面にブロックを二つ並べ、薪を燃やして自分の食事を用意するとのこと。炊事場にはブロックの「かまど」が10ほどあり、部屋の中は煤で真っ黒でした。日本の小学校では考えられません。1996年の臨江地震の時、現地で見えた小さな子供も早朝から自分で火をおこし食事を用意していましたが、その様子が思い出されます。この地域の子供の学業と生活の環境の厳しさを実感させられる光景でした。

学校は取入確保のために裏山を利用し、お茶を植えています。また、司法庁のボランティアの支援を受けて桑の栽培も行っています。この地域は養蚕が盛んで、5-9月の養蚕の季節には蚕が見られるそうです。学校は高い見晴らしの良い所にあり、校内では色鮮やかなピンクの桃の花が迎えてくれました。訪問時、学校は冬休み中で、子供たちはあまりいませんでした。代わりに民族衣装を着た校長先生や先生方が迎えてくださいました。



上) 乾季の思茅地域 砂埃をたながらひたすら山道を車で走りました
左) 菜戸小学校の教室の様子 電気はありません
左下) 道すがら家のお手伝いで荷物を運んでいた少年



上段左) 菜戸小学校の校舎 倒壊防止の木の支え
上段右) 白雲小学校周辺の集落に暮らすひとびと
下段左) 菜戸小学校の炊事場 子供達がここで自分たちの食事を作ります
下段中) 白雲小学校の近くで遊んでいた年長3人組
下段右) 白雲小学校周辺の土壁の家が並ぶ集落

前日の視察地より7時間ほど車に揺られ、白雲小学校のある岔科鎮に到着しました。赤い土の壁で出来た家並みが続き、中東のような印象を受ける町です。旧校舎は100年の歴史のある木造で、門の彫刻が素晴らしい。左右の狛犬は子供たちが沢山座って撫でたのか、つるつるして頭が磨り減っていました。日本のお寺を思わせるような学校で、危険でなければ是非使われてほしいと思うほど美しいものでした。

訪問した時、旧校舎の裏に白い壁の現代風校舎が建設中でした。そのまま旧校舎を使い続けるのは危険だということで工事が始まったそうです。資金は政府より15万人民元(約225万円)、住民から5万人民元(約75万円)を集めたものですが、児童と教師の宿舎用の費用が絶対的に足りていません。その為、結局旧校舎を宿舎として利用しているそうです。私はこの状況をみてある言葉を思い出しました。「換湯不換業」。スープを換えても業を換えずにいるように、違うことをしても結局中身は換わっておらず、この学生や教師が危険な所で学期を過ごすということと同じです。小学校視察の後、学校の周りの村を歩いて回りました。土壁の集落を豚や牛、馬、鶏が人と同じように歩いて回っていたのが印象的で、かなり強い家畜の臭いがし、特に雨季になった場合の衛生状況が心配されました。



樋口顧問の雲南小学校視察レポート



樋口忠治先生は九州大学名誉教授であり、久留米大学付設中等高等学校校長を務めておられます。そして、聯誼協会の顧問として日頃からご協力を頂いております。

2005年の暮れ、毎年訪れている玉龍雪山に行くことのほかに、もう一つ、石鼓の山奥にある仁和小学校の現状を視察することを目的に出発しました。日本・雲南聯誼協会から送られてきた一通のパフレットを見て、「雲南省 少数民族教育支援 経済の発展から取り残された少数民族の子供に学校教育を」という見出しの言葉が眼に入った時、ふと私の頭にあることが思い浮かんだのです。自分の一生の記念に、小学校を一つ建ててあげたい、小さな学校でもいい。長い間、大学で研究と教育に携わってきた、さらにまた定年後は私立の中・高等学校で教育に関わってきた自分にとって、日本の青少年は物質的な豊かさに毒されているとさえ思える。それに比べると、雲南の僻地の子供達の置かれている状況は何という違いだろうか。こうして、私と日本・雲南聯誼協会とのメールのやり取りが始まり、今回の視察旅行という運びになったのです。

面々建てるには、このように下部を石組みにするしかないでしょう。敷地が狭いので廊下はありませんが、それでも校舎としてはまずまずの感じでした。ちょうど授業中で、児童たちが熱心に先生の話をきいているところでした。あとで聞いたことですが、この学校は現在の校舎の建て替えを希望しているわけではなく、もっと山奥の村落の子供達をここに収容するために増築をしたいということでした。

2005年12月27日、麗江市教育委員会提供のRV車で目的地の仁和に向かいました。仁和は観光案内に記載されている長江第一湾のほりにある石鼓から山奥に入って行ったところにあります。石鼓からしばらくは未舗装の凸凹道で、かなりの悪路でした。小さな集落を過ぎ、両側に開門のようにそびえる絶壁の間をぐり抜け、さらに進むと小半時、ようやく仁和の行政役所に着きました。ここで一休みしてから、少し道を登ると、そこに学校がありました。

仁和小学校の視察を終えて帰る途中、同行した教育委員会の人から、途中にある「九河」の小学校を見て欲しいと言われ、そこに立ち寄ることになりました。「九河」は大理―劍川―鶴慶を結ぶ幹線道路が通っているところであり、山奥ではありません。浅くて広い谷間で、一面の畑ですが、冬だから作物はなく、さむさむとした風景でした。

案内されたのは、幹線道路から別れて細い道を進んだところにある集落の小さな学校でした。一見、だれもない廃屋かと思いましたが、近づいてみると、それは二階建ての小学校の校舎で、授業中でした。教室はまっくらで、中に児童たちがいることさえわかりにくい。木造の校舎全体が老朽化していて、傾きかけており、今にも倒れそうな感じがします。こんな暗い教室で勉強している子供たち、これはなんとかしてやりたい。それが私の第一印象でした。ここは聞くところによると、1年生から4年生までの児童だけで、5・6年の児童は別の小学校と合併され、そちらに通学しているとのことでした。私たちはこのあと、その「別の小学校」に立ち寄りまし。それはかなり大きな学校で、幹線道路の側にありました。

九河村には3つの小学校があり、将来はその3つの小学校を統合したいとのことでした。そうすることによって、教員の合理的な配置ができるのだそうです。

今回、仁和と九河という2つの学校を視察してきましたが、それぞれ抱えている問題があるということが理解できました。しかし、細かな問題について私自身が立ち入ることはできません。要は、劣悪な教育環境に置かれている幼い子供たちが、よりよい学習環境の中で勉強をすることができるようになれば、私のささやかな善意は意味があるだろうと思います。結論は、現地の人々と麗江の教育委員会あるいは行政機関、そして日本・雲南聯誼協会とその昆明事務局などが総合的に判断をして決めてくださればよいと思います。

終わりにあたって、今回の視察に便宜をはかってくださった人たちに御礼を申し上げておきます。麗江および昆明で歓迎会を開いてくださった雲南省婦国華僑聯合会副主席李巨濤、昆明事務局の林藤さん、美蘭さんありがとうございました。そして、特に初鹿野恵蘭理事長の御配慮には深く感謝しています。日本・雲南聯誼協会のますますの発展を祈りつつ。

日中他僑僑心小学校完成間近!

雲南省红河ハニ族イ族自治州にて、当協会支援第8校目となる「他僑小学校」の新校舎建設開始から早10ヶ月。6月後半から10月までの長い雨季による工事中断を経て、ついに4月の校舎完成も間近です。2005年12月、旧校舎の取り壊し、新校舎の基礎工事が終わりました。建設業者に混じってお母さんたちが作業を手伝う場面も写真でご覧いただけるでしょう。このように地元に根ざしたみんなの学校づくりが進んでいます。



地均し作業を手伝うお母さん達



基礎工事を見守る子供達も興味津々

2006年2月初鹿野理事長が雲南省婦国華僑聯合会に赴き、李副主席らと小学校建設状況の確認を行いました



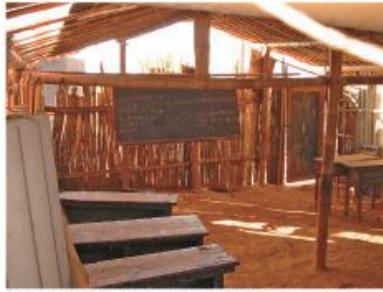
お話を伺った布京完小の蕭永忠校長先生



お手伝いをする子供達 家頭の顔となるサトウキビの茎を切ります

1月19日～21日、昆明事務局の二見さんが雲南省臨滄地区双江を訪れ、支援候補の2つの小学校を視察しました。臨滄地区は雲南省西南部に位置し、双江はその東南部にあり、ワ族・ラフ族・プーラン族・ダイ族自治県で少数民族の多く住む地域です。この地域の主な農産物は米、トウモロコシ、小麦、サトウキビ、お茶で、特にサトウキビとお茶については大きな収入源となっています。現在、南布新寨小学校の校舎に電気・トイレはありません。現在の校舎は2003年に住民が資金を出し合い材料を購入、建設したもの。竹と竹の皮、ビニールシートのみで作られ、床は土のままです。

布京完小の寄宿舎は危険校舎に指定されてから3年間、資金不足で建て直しができず、今も使い続けています。児童の家族は危険な宿舎で子供たちが住んでいることについてとても不安です。土のレンガでできている学校の状態は良くなく、雨漏りしたり崩れそうなどころがあったりします。村の住民も学校を良くしたいと考えていますが、住民の暮らしも厳しく力になることができない状態です。協会では今後、今回の視察による詳細資料を参考にして、打診のあったセーブ・ザ・チルドレンとの協力体制や小学校建設について検討していきたいと思っています。



南布新寨小学校の校舎 材料は竹と竹の皮、ビニールシートで住民の手作り。教室内には畳板と机のみ。イスはおろか電気もありません。



布京完小の寄宿舎内部「トゥッピー房」の寄宿舎は3年前危険家庭に指定されました。

《双江景沙河郷南布新寨小学校》

◎民 族	漢族、ラフ族、ダイ族
◎児童数と学級数	25人 1年生～3年生の全1クラス(複式学級)
◎教職員数	1人

《双江景沙河郷布京完小学校》

◎民 族	ワ族
◎児童数と学級数	52人 1年生～6年生の全4クラス(複式学級)
	うち寄宿生11人
◎教職員数	5人

第4回役員会のご報告

2006年2月24日、八王子第4回役員会を開催いたしました。今回の議題は(1)2006年年間活動計画と会費などの収入状況について、(2)認定NPO申請について、(3)里親制度「雲南の子ども応援基金」の検討、(4)日本財団(アジア教育友好協会)との連携事業決定・方針についての協議の4点でした。今回の議題は、今後の協会活動を新しい方向に発展させていくことに繋がるものばかりでしたので、いつも以上に熱のこもった会でした。また、NHKカメラマン吉田純二様が、雲南省での撮影を検討している関係で参加して下さいました。(※5月1、2、3日と5日のNHK「おはよう日本」内の雲南生中継と取材VTRが放送されます。)このたびの役員会は、北原茂実理事に場所の手配、費用のお支払いをしていただきました。北原理事のご協力により、役員会は滞りなく開催することができました。ありがとうございます。役員皆さま、お忙しい中お時間とって下さったことに心より感謝致します。



【写真後列左より】野々山尚敏様(北原藤伸務外務医師)、狩野・七田(事務局)、桂正徳理事、仙崎敏彦様、吉田純二様(NHK)【前列左より】峰尾勝美様(協会会員)、北原茂実理事、遠藤功理事、初鹿野志蘭理事、村松健児理事、唐澤英安理事 ※中村有里子理事が写真を撮って下さいました。

雲南少数民族風情展が帰ってきます!

2004年に埼玉県上尾と東京都新宿で開催され、大好評の内に終わった雲南少数民族風情展が再び帰ってきます!開催日程は今年の4月下旬。会場はクラブツーリズム株式会社(新宿本社)です。クラブツーリズム様のご好意により会場をお貸し頂くことになりました。とてもアクセスの良い場所にあるので、新宿にお立ち寄りのお友達などお誘いあわせの上、ぜひお越し下さい!雲南のお茶などご用意してお待ちしております。民族衣装や食、風習など雲南文化について触れる良い機会になるのでは?



2004年に新宿で開催した雲南少数民族風情展の様子。民族衣装の展示が印象的でした。



詳細日程や展示内容などは、現在事務局で検討中です。何かご提案やアイデアなどありましたら、事務局までとどしどしご教授下さい!!これから4月の開催に向けて、東京事務局では大忙しです。何か進展あり次第、ホームページ等でご報告しますのでお楽しみに!

● 雲南省商務庁が積水化学を訪問 協会が橋渡しとなる ●

3月14日、李輝明副庁長をはじめ、雲南商務庁の方々が発来し、協会の手配で、積水化学工業株式会社を訪問しました。積水化学は、中国での事業展開に力を入れている会社で、積極的な技術提供により大きな社会貢献を行っています。雲南商務庁では、その活動を雲南省でもぜひ展開してほしいと考え、今回第一回の話し合いとなりました。

話し合いの席では、積水化学取締役の丸下芳和様、国際部長の藤井重樹様、仲野雄二様をはじめ、中国進出に関わっている方々から、新疆ウルムチ地区での展開の話を中心に、色々な話を伺うことができました。中国でのビジネスについても熱く語り合うことができ、今後につながる、有意義な話し合いとなりました。また当日は、技術評論社、協会東京事務局も訪れました。当協会顧問の片岡社長とは、雲南政府と協力しあって、日本で雲南の経済・観光情報に関して出版した、雲南専門誌についての話をしました。話はとても弾み、和やかな席となりました。



商務庁の李副庁長は今回が初めての来日でした。企業や日本に対してとても良い印象が残ったと話していました。協会は今後も、雲南省や、企業との交流に、引き続き力を入れてゆきたいと思えます。ご協力くださった皆さま、本当にありがとうございます。前右から積水化学藤井重樹国際部長、雲南商務庁 李輝明副庁長、積水化学丸下芳和取締役、初鹿野理事(後列左) 積水化学仲野雄二国際部長

YUNNAN ニイハオ! 昆明事務局です

vol.3 TOKYO

昆明事務局お引越し完了!

2月下旬、昆明事務局がより便利な市内中心部に移転しました。まだ完全に整ったとは言えない状態ですが、3月21日、昆明在住の会員や関係者を招いての新事務局お披露目を同局で開催しました。10名ほどのメンバーが集まり、協会の活動から昆明で起こったニュースについてなどの話題で大いに盛り上がりしました。

最近、日本から雲南に行かれる会員の方々・ボランティアの学生等が昆明事務局を訪れる機会も増えています。新しい事務所が雲南と日本を繋ぐふれあいの場となっていくのを、事務局一同、楽しみにしています。ぜひ昆明にお越しの際にはお寄りください!

協会の活動拠点、雲南省にある協会昆明事務局からの話題を毎回現地よりお届けします!



南里穂事務局長(左上) 二見由紀(左) 林郷(右)

【日本雲南聯誼協会昆明事務局新事務所】

中国雲南省昆明市人民東路289号集大広場20階2011室
電話: 86-871-3311-468 FAX: 86-871-3320-658
スタッフ 南里穂(事務局長)・林郷・二見由紀(日・中・英が通じます)
*最寄バス停は「延安病院(人民東路)」です。29、47、50、54、74、103、108路のバスが通っています。一階に昆明市工商銀行、向かって左隣にはウォルマートがあります。

日本・雲南聯誼協会役員ご紹介



日本・雲南聯誼協会の役員自慢をしてもいいですか?それは、名前だけの役員が1人もいないということ。協会設立以来、社会の様々な分野の第一線で活躍されている方々が協会の活動に賛同し、ご協力くださっています。協会の役員は会員の皆さんの代表として、また縁の下の力持ちとして日々活躍いただいています。役員会は2~3ヶ月に1度開催し、協会の大きな活動方針を協議します。毎回、遠く湖南から足を運んでくださる杉谷専務理事をはじめ、役員の方々にご参加いただいています。役員同士の仲が良いことも自慢です。役員会後の懇話会ではいつも様々な分野の話に花が咲きます。今回はそんな協会の役員たちの面々を紹介させていただきます。

※アドバイザー役の顧問のご紹介はまた次の機会にさせていただきます。

- 理事長(統括) 初鹿野恵蘭
- 専務理事(文化交流担当) 杉谷 隆志 日本炭炭美術会 会長
- 理事
 - (法律関係担当) 遠藤 功 遠藤登記測量総合事務所 所長
 - (医療プロジェクト担当) 北原茂実 北原藤伸神経外科病院 理事長
 - (企業交流担当) 初鹿野恵 日本電子計算(株) 社会事業部マネージャー
 - (教育プロジェクト担当) 唐澤英安 データ・ケーベーク(株) 代表取締役
 - (企業交流担当) 桂 正徳 積水化学工業(株) 情報システムグループマネージャー
 - (チャリティイベント担当) 中村有里子 ブルーストーン・GF(株) 取締役(社会保険関係担当) 大鷲修平 社会保険労務士大鷲事務所 所長
- 監事
 - (大学間交流担当) 村松健児 東海大学 教授
 - (大学間交流担当) 佃 純誠 武蔵工業大学 教授

ニュースではわからない 仮面の下の中国 長期滞在ビジネスマンの「!」と「?」

“どうすれば中国人と関係を築くことができるのか?彼らとの付き合い方、ビジネス進出のヒントがここにある” 技術評論社刊

昆明事務局長の南里穂さん執筆作品!!!

定価 1449円(税込み)
お近くの書店にてお求め下さい。

「彩雲の南」に広告を掲載しませんか?

「彩雲の南」誌上に御社の広告を掲載し、大きなアピールをしてみませんか?お預かりする広告費は、当協会の活動運営資金の大きなサポートとなります。ぜひ多くの方々からのご協力をお待ちしております。お申込み・お問い合わせは協会東京事務局まで。

NPO法人 日本・雲南聯誼協会 「彩雲の南」データ

- 発行部数 5000部
- 発行形態 5回/年
- 版型 A2 2つ折(A3タブロイド版4頁)
- 印刷形態 4色
- 配布対象 協会会員・協会協力者・中国関連企業

